

第2回 公共施設再配置・町有地有効活用等検討委員会 議事録

開催日時	平成 29 年 12 月 12 日（火）18 時 00 分～20 時 00 分	
開催場所	役場 2 階第 1 会議室	
出席者	委員	出席 4 名 小峰委員、山崎委員、桐生委員、三宅委員
	その他	
	二宮町	政策総務部長、教育部長、政策総務部政策担当参事、 政策総務部財務課 2 名
	事務局	政策総務部企画政策課 3 名
会議次第	<p>1. 開 会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議 題</p> <p>（1）公共施設再配置・町有地有効活用実施計画（案） について [町有地・シンボル事業]</p> <p>（2）公共施設再配置・町有地有効活用実施計画（案） について [個別施設計画の修正・役場庁舎等]</p> <p>（3）町民意見募集について</p> <p>（4）その他</p> <p>4. 閉 会</p>	

## ■議事録

### 1. 開 会

### 2. 会長あいさつ

- ・先日、テレビ番組で若いサラリーマンの 40%程度が地方で暮らしたいと考えていると紹介されていた。そういった流れがあれば、二宮町も今後人口が増加することがあり得るかもしれない。今回策定する実施計画の見直しの際には、人口増加によって頭を悩ますことになれば良い。

### 3. 議 題 (○委員意見 ●町意見等)

#### (1) 公共施設再配置・町有地有効活用実施計画(案)について

[町有地・シンボル事業]

##### ●事務局による資料説明

- ・資料 1-2 の参考資料は、実施計画を策定して公表するときには、あわせて提示することを考えている。

○東京大学果樹園跡地の A 地区は、市街化調整区域だが、眺望が良いため売却してしまうのはもったいないように思う。町民ワークショップでも検討の対象外としており、現地見学等も行っていないが、キャンプをできる場としたり、オリーブを使った食事を提供するキッチンカーを入れたりする等のアイデアがもう少しあっても良いのではないか。

●東京大学果樹園跡地活用等検討委員会において A 地区は引き続き農地として活用するという方向性が示されており、今回の計画はその内容を踏襲している。

○A 地区は農業振興地域に該当しているか。

●農業振興地域からは外れている。地目も学校用地となっている。

●東京大学果樹園跡地活用等検討委員会では、進入路が農道であることから、活用による近隣農業への影響を懸念する意見が挙がっていた。貸し出しする際にも B・C 地区は公募としたが、A 地区は農業として活用することを見込んだ貸し出しとした。

○オリーブの栽培を続けた場合、成長により葉が生い茂って今ある眺望が見えなくなるのは寂しく思う。A 地区を売却するとしても、眺望を望める散策路を設ける等を検討してもらいたい。

○東京大学果樹園跡地の計画に中長期の見通しが記載されていないが、計画に位置づけておくべきではないか。

●中長期についても書ける範囲で計画に記載する。

○平成 30 年度に事業計画を作成するとしているが、整備等もそれまでに実施するのか。

●平成 30 年度は実施するとしてもワークショップで実施できるようなレベルでの整備を考えており、地形等を変更するような規模の整備は行わない。平成 30 年度に東京大学

果樹園跡地の事業計画を作成する中で整備を位置づけた場合は、計画に沿って平成 31 年度以降に整備を行っていく。

- シンボル事業 3 では、予約システムの導入を位置づけているが、タイトルにある「老朽化した施設の統廃合・複合化」との関係がわかりにくい。施設の統廃合・複合化に向けて予約システムを導入するということか。
- そのように考えている。施設の統廃合・複合化に向けて予約システムを導入するということが明確になるような記載にする。
- シンボル事業 3 は、今年度から先行して実施しているということでのよいのか。
- 駅前町民会館の廃止については今年度中に終わってしまうが、予約システムの構築は平成 30 年度から実施していく。
- 「老朽化した施設の統廃合・複合化」というタイトルのままでいいのか。予約システムの導入に絞らなくていいのか。
- 今後、役場庁舎や小中学校等も含めた施設の統廃合を行っていくため、予約システム導入の先も含めたタイトルとしている。なお、タイトルは策定方針から引き続けているものであり、変更はできないため、本文の説明をわかりやすくするよう努める。
- 町民アンケートでは、ふたみ記念館が廃止しても良い施設の 1 位になっているが、寄付していただいた経緯もあり廃止できないということである。もっと有効に使えるような方策を計画に位置づけられないか。アンケートの結果をみると、町民は利用促進だけでは納得できないのではないか。
- アンケートの結果がすべてということではなく、計画には町の考えもきちんと入れていく。ふたみ記念館を貸館にする等ではなく、二見利節の絵画をいかに多くの人に見てもらうかを考えていく。
- 美術を残しながらもそれ以外の活用も考えていくべきではないか。アンケートでの町民意見を踏まえた内容を計画に記載すべきである。何か良い考えはないものかと思う。
- 計画には具体的に記載していないが、利用促進策については担当課（教育部生涯学習課）でもいろいろと検討している。
- 計画の中でアンケートの結果に触れるというのはいかがか。
- アンケートだけを出していくのは危険でもある。アンケートだけがすべてというわけではない。
- 複合化をして相乗効果を狙うということも考えられる。ふたみ記念館の機能自体が不要ということではない。
- 複合化によりマネジメントの効率化を図ることも考えられる。予約システムだけが独立しているのではなく、複合化（ハード）と予約システムの導入（ソフト）を合わせて実施していくことが必要ではないか。グランドデザインのビジョンの中で上手くシステムが活用されていけばいいと思う。
- 他の自治体ではファシリティマネジメント\*という考え方を出しているところがある。

参考意見だが、ファシリティマネジメントの視点も計画に検討課題として入れておくべきではないか。

※ファシリティマネジメント…企業、団体などが保有又は使用する全施設資産及びそれらの利用環境を経営戦略的視点から、総合的かつ統括的に企画・管理・活用する経営活動。

- アンケートだけを尊重するといろいろと問題も出てくると思う。
- ふたみ記念館の展示ギャラリーも予約システムに入れるべきではないか。そうすることで展示ギャラリーも利用者の選択肢に入ってくるのが期待できる。
- 町の担当課でもいろいろと取り組みを行っている。展示ギャラリーは 2 年前から貸し出しを開始したが、今年度は今のところ利用がない。ラディアンラディアンの展示ギャラリーを使用している団体に聞いたところ、立地の関係で使いにくいので使うつもりはないという意見をいただいた。ただ、ボランティアの方々が熱心に活動されていて、今年度はふたみ記念館での演奏会や、二見利節のご子息の講演を開催した。絵画の展示のみでの利用促進は難しいが、貸館としても利用者を増やすことはなかなか難しいと感じている。
- 美術館のネットワークの中での特色づけが必要ではないか。他の美術館との連携等も検討すべきでは。
- 毎年 1 回、館内で展示替えを行っているが、展示替えとしてはそれが限界である。連携という意味では、過去に二見利節の弟子の作品の展示を行ったことがあった。他の美術館との連携も試みたことがあるが、作品管理の関係で話がまとまらなかった。
- 町に学芸員はいるのか。
- ふたみ記念館にはいない。
- アンケートで廃止しても良いと思う施設の 1 位になったのは、ふたみ記念館の存在自体に対する町民の理解が薄かったとも考えられる。施設を残していくのなら、いかに町民の認知度を上げていくか、PR の方法を考えるべき。
- 計画に利用促進以外の取り組みについても、文言として何か入れられると良いと思う。

## (2) 公共施設再配置・町有地有効活用実施計画（案）について

[個別施設計画の修正・役場庁舎等]

- 事務局より説明（資料 2-1 について）
  - ・実施計画に先行した取り組み（駅前町民会館の廃止、町民センター及び防災コミュニティセンターの使用時間の細分化）について説明。
  - ・その他、口頭により、役場庁舎の検討状況について報告。委託で調査を行っている内容は、耐震補強、建替え、移転としている。移転の候補地は、ラディアン周辺または東大果樹園跡地を想定している。年内には委託で行っている報告書ができるため、次回の検討委員会では報告書の内容を報告する。
- 役場庁舎についての庁内検討委員会等は設置されているのか。

- 設置されていない。今年度はまだ基本構想や基本計画を検討する段階ではない。
- 役場庁舎についての記事が新聞に出ていた。
- 現段階において、委託で出てきた範囲で答えたもの。年度内には最終的な方向性を出していく。
- 前段階で情報収集や十分な事前検討が必要である。
- 施設規模については、国の基準に当てはめて検討している。規模は今年度の報告書で示すが、ぼんやりとした報告書になることが予想されるため、内容をどう絞り込んでいくかが課題となってくる。複合化についても現段階では検討しておらず、役場庁舎だけを整備するということもあり得る。他の施設との複合化ありきということではない。
- 複合化のイメージを早いうちに議論しながら作った方が良いと思う。1年で基本構想や基本計画を作るのは難しい。良いものが出るよう事前検討をしっかりともらいたい。
- 町民センター等の使用時間の細分化にあたっては、ラディアンの使用時間も合わせていくのか。
- 今回の細分化が基本的な考え方であり、出来るだけ統一していく方向だが、施設の特性等もあるため、個別に検討は行っていく。
- 使用時間区分が施設によってバラバラにならないよう、先を見据えた改正を行ってもらいたい。
  
- 事務局より説明（資料2-2について）
  - ・平成29年12月議会において町議会から提出された決議書を受けた、町営プールの実施計画の修正について説明。
  - 参考資料の決議書は議会で正式に認められた文書なのか。
  - 議会において賛成多数で議決された決議書である。
  - 袖が浦プールは観光拠点の一環となっていたのか。
  - プールとして流行っていた時代はあり、その当時はバンガロー等があった。
  - 観光拠点ということは、観光客によってお金は落とされていたのか。
  - レストラン等はなかった。バンガロー等によって多少の経済効果はあった。
  - 決議書には地域のためとあるが、観光プールということはそもそも町外の人のための施設なのではないか。観光プールとして使われなくなったということで、地域のために使われるというのなら良いとは思うが。
  - 子ども達だけで行くプールが必要なのか。
  - 議場でも質疑があった。袖が浦プールまでは安心して自転車や徒歩で行けるという議論がされていた。
  - 「子ども子育て支援事業計画」とプールの関係が見えづらい。プール再開のニーズが

本当にあるのかがわからない。論理に飛躍があるのではないか。

- 「子ども子育て支援事業計画」とプールの再開を結びつけるのは理論的にはおかしい。決議文は読んでいて恥ずかしいものであり、これを書いた議員の勉強不足と言わざるを得ない。プールの再開を求めることについては、心情的にはわからないこともないが。
- 決議文を町民が読んでどう感じるか。主張の根拠が示されていない。
- アンケートでは袖が浦プールはどうなっているのか。
- 廃止しても良いと考える施設の3位に挙げられている。
- 総論賛成・各論反対の第1号である。今回の対処により、今後も似たようなケースが出てきて計画が進まなくなることが懸念される。そこを踏まえてよく検討してもらいたい。
- 1つのプールに対して決議書が出てくるというのはバランスがわるい。袖が浦プールを残す代わりに他の地域集会施設等を廃止しても構わないということか。一部地域のみ利益を享受するなら、地域で経費をまかなうということも考えられる。
- 観光施設としての袖が浦プールについては役割が終わったという議会答弁もしている。平成30年度には、収支等の客観的なデータもきちんと示しながら町民に意見を聞いていく。
- 平成30年度に町民意見を聞いていくということで、計画の記載内容の変更については承認する。
- 平成30年度はどういった手法で検討を行うのか。
- 突然のことなので未定だが、アンケートではなく直接意見を聞いていく必要があると考えている。その際には、意見が特定の地区に偏らないように注意していく。
- 意見は3つの町営プール間で比較検討が出来るような形で聞いていく。
- 2年間休止しているので、施設もすぐに使えないのではないか。
- 議員は議決前にアンケート結果を見ているのか。なぜ袖が浦プールに対してだけなのか、違和感を感じる。

### (3) 町民意見募集について

- 事務局より説明
  - ・町民意見募集については、町ホームページ等において行う。
  - ・町民意見募集前に政策会議での調整がなされるため、各委員には町民意見募集に出す資料を送付する。

### (4) その他

- 次回の開催は2月頃を予定している。

以上